

(6) 「夢は見るものじゃない、実現するものだ」

—わが師の旅立ち—

施設長 福田 雅文

私も古希を迎え、自分も人生の最終章にはいったと感じるこの頃、恩師・仁志田博司先生の訃報が届いた。数日後、山中湖で一緒に過ごす予定だったので本当に驚いた。先生は久しぶりにご夫婦で九州を旅行され、温泉旅館で大好きなお酒を嗜み、ほろ酔いで露天風呂に入浴中、眠るように旅立たれたとのことである。さすが先生らしい大往生だったと思う。様々な仲間たちとお酒を酌み交わし、和やかに夢や未来を語り合うことが大好きで、人間性溢れる魅力的な師だった。

日本の新生児医療がまだ夜明け前の時期に先進的な米国に留学され、新生児周産期専門医を取得し帰国された。その後、日本の新生児医療の発展に多大な功績を残されてきた。

先生は東京女子医大母子総合医療センターで新生児医療を目指す若き医師を育て、仁志田学校で学んだ多くの医師が全国各地で活躍している。新生児医療を学ぶ医師や看護師向けの「新生児学入門」は新生児医療を学ぶ人にとってはバイブル的な本となっている。晩年は子どもたちに「あたたかい心を育む運動」を普及させるための社会活動を始められ、旅立つ直前まで講演会などを通してそのメッセージを送り続けられた。

また、難病のこども支援全国ネットワーク(難病ネット)は心ある方から山梨県白州の自然豊かな土地 3000 坪を提供された。難病の子どもたちやご家族は周りに気にせずいつでも宿泊できる常設キャンプ場をつくることを夢に描いていた。そんな時に仁志田先生に白羽の矢が立ち、先生の活動が始まった。難病の子ども達のためのレスパイト村の建設は「みんなのふるさと夢プロジェクト」と名付けられた。建設資金がない中で、仁志田先生は難病ネット代表の小林信秋さんに「小林さん、夢は見るものじゃない、実現するものだ」と叱咤激励し、夢は動き出した。仁志田先生を中心とした地道な活動は瞬く間に周りを巻き込み、大きなうねりとなり、ついに夢は実現し「あおぞら共和国」が建設された。現在では、多くの難病や重い障がいのある方たちとそのご家族が利用されている。

先生はずっと夢を実現させてきた夢のような先生だった。

仁志田博司先生へ贈る言葉

先生の優しさは特別でした
先生はみんなの憧れでした

赤ちゃんをじっと見つめる眼差しはやさしかった
お母さんに語りかける言葉はやさしかった

生まれたばかりの赤ちゃんのように夢と希望に胸を膨らませ、
私たちが夢の世界へと導いてくれた
赤ちゃんのような純粹、無垢な目に私たちは夢中になった
語りかけてくれる言葉に、夢を抱き、先生の生きる姿に感動した
私たちがいつのまにか夢を描き、みな輝く道を歩み始めていた

いつも少年のように夢を語り、夢を追いかけ、夢を実現させてきた
赤ちゃんを愛し、その家族を愛し、新生児に生き抜いた先生

先生と出会えて本当に良かった 語り合えてとても楽しかった
先生との出会いが私たちの人生を輝かせ、かけがえのない人生となった
「あたたかい心を育む」活動は先生の生き方、人生そのものだった

先生のあたたかい心は私たち一人ひとりの心にしっかりと息づいています

- 「他人のことを思う心」
- 「他人の悲しみと痛みを感じる心」
- 「他人とのつながりを感じる心」

大切に育んで生きていきます